

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 始良・伊佐地域振興局農政普及課

課題名② 地域の特性を生かした水稻の産地強化(伊佐)						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6			⑥肥料価格高騰対策で経費削減、堆肥の活用は大切だと思った。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	1			
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して取り組まれていたか	4	2			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であったか	5	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	2			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	4		⑥土地利用型の米において、10aあたりの経費を削減することは大きいと思った。	
活動の 波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	3			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	3			
全体的な意見・提言等					②病害虫の防除の取組は地域の農業者への波及性はあると思うが、その他、堆肥の活用、伊佐米の認知度向上等はまだ少し普及指導が欲しい。 ③牛ふん堆肥活用に関する費用時間等を数値化できないか？また、食味に及ぼす影響についても検討してみても？地域条件に応じてどの程度の大規模化が可能か研究して欲しいと思います。 ④コストを削減しさらなる良品質の米づくりに期待したい ⑤米の高騰が言われていますが、伊佐米には本当に頑張って欲しいと思います。伊佐米の小さな袋のものをいただいたとき、パッケージ、味ともにとてもよかったのが印象的でした。伊佐米のよさをもっと知ってもらえたらいいと思いました。 ⑥伊佐米は県内でも有名なブランド米なので、もっと販売単価を上げられると思った。また、堆肥利用の推進は他でも広めていただきたい。	②堆肥活用、伊佐米の認知度向上に向けた普及指導活動の内容の充実を検討していきたい。 ③堆肥活用の評価内容・波及方法を検討していきたい。 ④米の品質向上、堆肥活用に向けた普及指導活動を次年度の普及計画に反映しています。 ⑤県、関係機関と連携して、鹿児島島の米、伊佐米の認知度アップに向けた取組を継続していきます。 ⑥他地域への波及は、関係機関と連携して、今後検討していきたい。

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 始良・伊佐地域振興局農政普及課

課題名② 地域の特性を生かした水稻の産地強化(伊佐)						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	4	3		⑦課題が収益性向上というのは古くからの課題であって、その取組は他の道府県をリードするものであるかがわからない。	⑦新規担い手確保、水稻産地の維持・強化には、収益性向上が必要不可欠であるため、重要な課題として取り上げ、継続して取り組んでいる。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であったか	3	4		⑦ブランド化の実施しやすさとしての対象は良いが、結果生産量が足を引っ張ると考えるので、振興局単位でなく生産の質がそうう地域をまとめて県、経済連単位で取組む選択をしてはいいかがか。	隣接し地域特性の近い地区同士であっても、組織が異なる場合もあるため、県、経済連等の関係機関と連携した取組を検討していきたい。
活動体 制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	5	2		⑦関わるべき組織が活動していると見えるので良い。広域の取組があるとなお良い。活動方法等が適切であったかコメントもないが、被害が減っているといったものをどう見ていいのかわからない。生産コストの軽減において、過去にも同様の成果などあったか検証したか気になる。	⑦ご意見を踏まえ、活動方法・成果を示せる評価指標を今後検討していきたい。生産コストの軽減については、農業開発総合センター等での堆肥を活用した減肥の実証結果はある。そのため、伊佐地区において実証ほを設置し、堆肥を活用した減肥での水稻の生育状況や生産費低減効果の理解促進に向けた取組を行ってきたところである。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であったか	3	4			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	4			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか		7		③資料において⑦が確認出来ない。 ⑦農業者が納得しているのであれば効果が上がったといえるが、成果が明確に示されていない。指導対象が対策等をした明確な取組を示して評価すべき。	③、⑦病害虫情報提供後、防除の早期実施や農業に関する問い合わせが増えるなど、病害虫防除に対する意識向上は見られました。ご意見を踏まえ、成果を示せる評価指標を今後検討していきたい。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	1	5	1		
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	5	1	⑦他の課題には直結しないと思うが、県下の米どころの指導指標にはなっていないのではないかと考える。 成果の有無にかかわらず今後の取組を掲げたようにも見受けられる。	⑦取組中の活動の方針も含めて、収益性向上に向けた今後の取組を示させていただいた。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	1	6			
その他の意見・提言等					①伊佐米の品質収量の向上とブランド向上に向けて頑張っていたきたい。 ②鳥獣害対策の徹底を ③改善策について、認知度向上のためのコンクール出品だけでなく新たに取り組む方策を検討する余地があると感じられた。 ④米の収益性を高めることは、酷暑や自然災害を受けやすい水稻栽培において大変重要。また、伊佐米ブランドの強化についても、高品質・良食味を維持していくためには必要な検証実証と思います。 ⑤伊佐米ブランドはすでに確立されていると思うが、さらなる高みを目指し、食味・品質向上支援を継続することで収益性の向上を目指しながら水稻の担い手確保等に繋がる取組をお願いしたい。 ⑥始良伊佐地域は、水稻栽培が種に行われているが、耕作者が減少する傾向にあると推察されるなかで農地保全を含み今後農家が安定した経営が出来るように今回の取組が広く活用されることを期待する。 ⑦県はどのような評価で、外部者の視点を求めているといった活動であると思うが、内部で評価されたものを示したうえで外部評価者への評価依頼をされてはいいかがか。	③ご意見を踏まえ、今後検討していきたい ⑤食味・品質向上支援は、次年度の普及計画に反映しており、継続して水稻の担い手確保に向けた取組を進めていきます。 ⑦ご意見を踏まえ、今後検討していきたい

※ 「外部委員から意見・提言」に対して「改善策や普及指導計画への反映等」が連動するように記載してください。

## 地域の特性を生かした水稻の産地強化

～伊佐市における水稻の収益性向上を目指して～

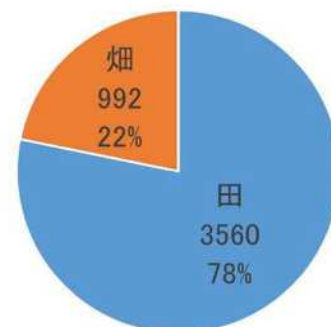


始良・伊佐地域振興局 農政普及課伊佐市駐在

## 伊佐市の耕地面積と主要作物の栽培状況

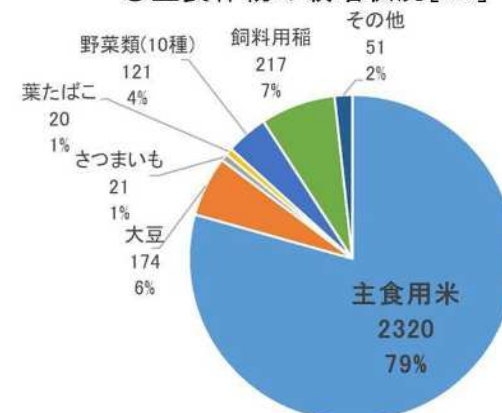
- ・水田率78%，主食用米の栽培面積は全体の79%。
- ・主食用米は，伊佐市の農業を支えている重要な農産物。

○耕地面積[ha]



資料：県農産園芸課調べ

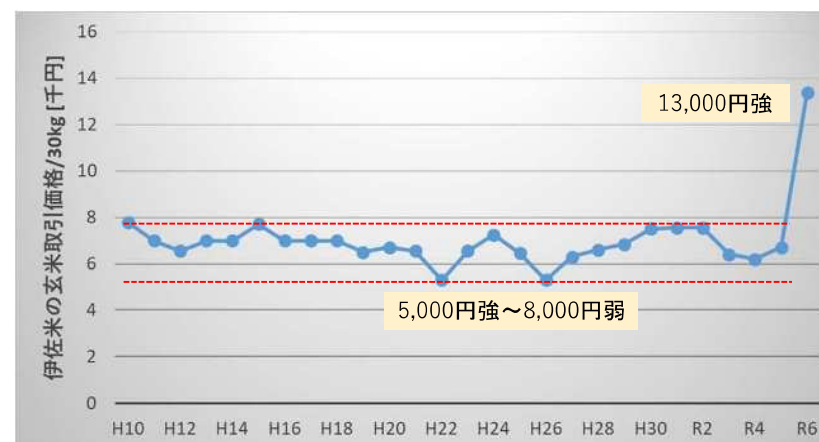
○主要作物の栽培状況[ha]



資料：令和4年農林水産統計

## 伊佐米の玄米取引価格

- ・令和5年度まで玄米取引価格は低迷，令和6年度は大幅上昇。
- ・インバウンド増，業者間買取競争激化等が要因。ただし，先行きは不透明。

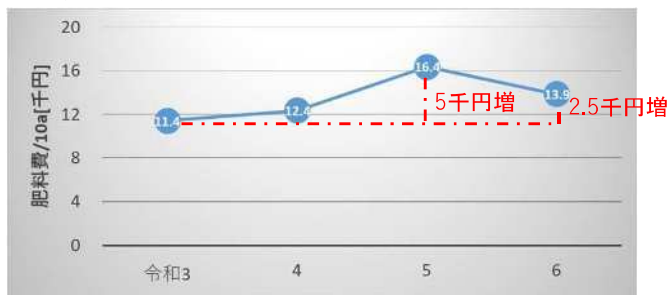


## 伊佐市の水稲栽培を取り巻く情勢

## 肥料価格の高騰

- ・生産費における肥料費割合13～17%で、肥料価格高騰インパクト4.5%。
- ・令和5年は20ha規模で99万円増となり、水稻経営を圧迫。

肥料費/10a試算 ※肥料費:堆肥 + 基肥一発型肥料



水稻大規模経営モデル(20ha)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
肥料費[千円]	2,280	2,470	3,270	2,770
肥料費/生産費	12.6%	13.5%	17.1%	14.9%
令和3年との差分[千円]	0	190	990	490

+4.5%

## 水稻産地強化にむけて

- 課題：水稻の収益性が低いため、新規参入・規模拡大が進まない
- 目指す姿：担い手確保、大規模化を目指せる収益力のある水稻産地

### 収益性向上に向けた支援（令和4年度～6年度）

#### ●生産性向上

- ①病害虫の適期防除徹底に向けた調査・指導体制の強化
- ②スマート農業等の導入支援（研修会等による新農業技術の理解促進）

#### ●生産費削減

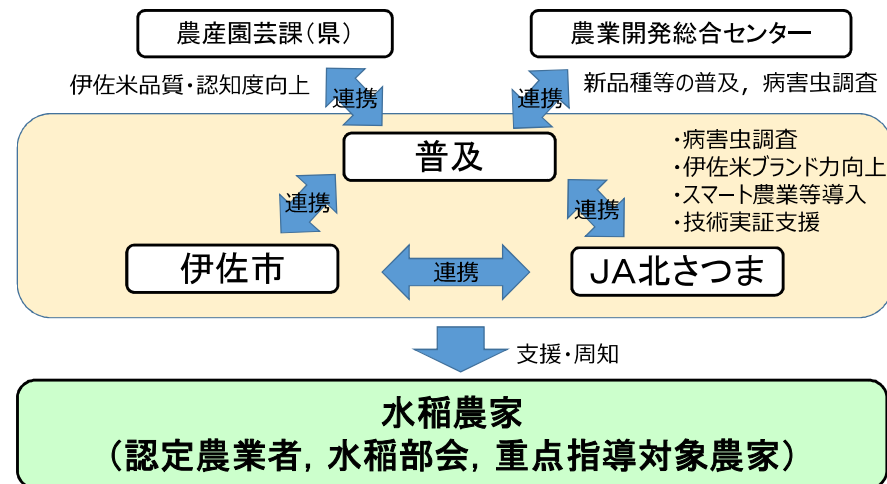
- ③堆肥等の活用による肥料費削減対策の実証と普及  
「混合堆肥複合肥料」と「堆肥×窒素単肥施用」

#### ●伊佐米ブランドの強化

- ④食味や品質の優れた品種普及（新水稻品種「あきの舞」の普及推進）
- ⑤伊佐米の認知度・ブランド力向上支援

## 推進体制

- ・関係機関と連携して水稻産地強化の活動推進



## 普及活動の取組 （令和4年度～令和6年度）





# 堆肥活用した肥料費削減対策取組①

- ・堆肥活用肥料の有効性を検証し、栽培ごよみを更新して地域へ波及。
- ・低コストの混合堆肥複合肥料の普及率は15%まで増加。

## 混合堆肥複合肥料の実証（令和5年度）

		成分			生育	残留地力 (リン酸, 加里)	収量 (kg/10a)	コスト (円/10a)
		窒素 (kg)	リン酸 (kg)	加里 (kg)				
実証区	一発イネリッチ（晩生用） 37.5kg/10a, 堆肥10%含有	7.5	3.8	3.4	同等	同等	703 (98%)	-1193 低コスト
慣行区	基肥一発型肥料（晩生用） 50kg/10a	7.5	5.0	5.0	—	—	715 (100%)	—

※土づくりで牛ふん堆肥1トン施用

### 普及方法

- ・令和6年度の水稲栽培ごよみに資材追加

### 普及率

	令和5年	令和6年
慣行肥料	100%	85.3%
イネリッチシリーズ	0%	14.7%



出典：堆肥入り肥料の取り組みについて

# 堆肥活用について

- ・牛ふん堆肥の窒素成分の肥効率は低いが、肥料として利用可能。
- ・堆肥中養分の活用には、土壌診断による土壌の養分状態の把握が重要。

## 堆肥、基肥肥料の養分量比較

種類	窒素(kg)	リン酸(kg)	加里(kg)
牛ふん堆肥/1t	10.6[30~40]	14.0[60~70]	15.0[90]
豚ふん堆肥/1t	26.8[50~60]	46.1[60~70]	23[90]
鶏ふん堆肥/1t	31.2[60~70]	38.8[60~70]	32.7[90]
基肥一発肥料(化成)/50kg	7.5[100]	5.0[100]	5.0[100]

[ ]は、化成肥料を100%としたときの肥効率(%)

# 堆肥活用した肥料費削減対策取組②

- ・伊佐市は生産牛などの畜産が盛んな地域。
- ・牛ふん堆肥×窒素単肥による減肥栽培を実証。

## 牛ふん堆肥×窒素単肥の実証（令和5～6年度）

		堆肥成分			肥料成分			肥料施用 前地力 (リン酸, 加里)
		窒素 (kg)	リン酸 (kg)	加里 (kg)	窒素 (kg)	リン酸 (kg)	加里 (kg)	
実証区	牛ふん堆肥＋被覆尿素100 （窒素単肥）17.9kg/10a	10.6 [30~40]	14.0 [60~70]	15.0 [90]	7.5	—	—	適正以上
慣行区	牛ふん堆肥＋基肥一発型肥料 （晩生用）50kg/10a	10.6 [30~40]	14.0 [60~70]	15.0 [90]	7.5	5.0	5.0	適正以上

※土づくりで牛ふん堆肥1トン施用，[ ]は化成肥料を100%としたときの肥効率(%)

実証区：堆肥中のリン酸と加里，窒素単肥の窒素を利用。

# 牛ふん堆肥×窒素単肥の実証結果

- ・牛ふん堆肥×窒素単肥による水稲栽培は可能。
- ・堆肥活用と土壌診断に基づいた適正施肥（減肥）の普及推進。

## 堆肥×窒素単肥の実証（令和5～6年度）

		生育	残留地力 (リン酸, 加里)	収量 (kg/10a)	コスト (円/10a)
実証区	牛ふん堆肥＋被覆尿素100 （窒素単肥）17.9kg/10a	同等	同等	711 (99%)	-4164 低コスト
慣行区	牛ふん堆肥＋基肥一発型肥料 （晩生用）50kg/10a	—	—	715 (100%)	—



実証区(堆肥×窒素単肥)



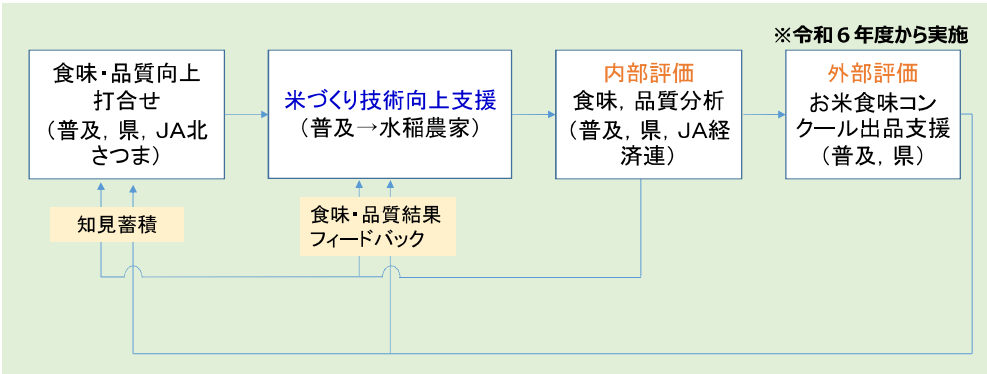
慣行区(堆肥×基肥一発肥料)

- ・生育に差異なし。
- ・両区とも更なる減肥  
できる可能性あり。

## 伊佐米の認知度・ブランド力向上の取組

- ・食味・品質データを活用した米づくり技術向上支援。
- ・外部評価を活用して伊佐米の認知度・ブランド力向上。

### 「あきほなみ」の食味・品質向上支援（平成24年～）



## 伊佐米の認知度向上の取組結果

- ・伊佐米「あきほなみ」が奨励品種部門1位獲得。県内外へ効果的にピーアール。
- ・農家は米づくり力向上。普及は蓄積した技術を地域へ波及。

### 九州のお米食味コンクール出品支援（令和6年）

農家の声：「専門家にアドバイスをもらいながら特別栽培米を続けてきた。手間がかかる分おいしいお米に仕上がってくれた」

コンクール主催者からの講評（共通）

- ・食味良好
- ・外観の更なる向上が望まれる

#### 出品成績

出品	品種	食味	外観	総合
A	あきほなみ	S	A	A
B	あきほなみ	A	B	B
C	あきほなみ	A	A	A
D	なつほのか	S	C	C

※評価：S > A > B > C

課題：外観の更なる向上



広報いさ 2025.01.01より

## 米づくり技術向上支援

- ・生育、品質・食味結果をもとに、適期収穫時期や栽培条件等を提案。

### 成分分析 ※収穫：手刈 10/21, コンバイン 10/28

あきほなみ (玄米)	品質 評価値	成分分析			千粒重
		タンパク質 CM@15 %	水分 %	アミ ロース%	
手刈、稲架がけ	73.0	6.4	14.6	19.9	23.6
コンバイン、乾燥機	74.0	6.3	14.4	19.8	23.9

千粒重小さく、タンパク質高い→登熟期の生育減退

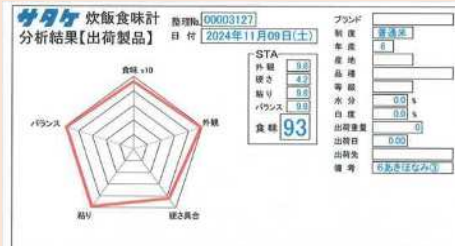
### 外観分析

あきほなみ (玄米)	穀粒判別機				
	整粒 %	胴割 %	未熟 %	着色 %	死米 %
手刈、稲架がけ	56.2	22.5	16.5	2.6	2.0
コンバイン、乾燥機	41.0	48.1	9.5	0.5	0.7

コンバイン、乾燥機で胴割増加→乾燥条件の影響

課題：登熟期の生育減退、胴割の対策が必要  
→栽培条件、乾燥条件について提案

### 食味分析



食味良好！

## 今後の水稻産地強化に向けて

- 目指す姿：担い手確保、大規模化を目指す収益力のある水稻産地

### 収益性向上に向けた今後の取組

- 生産性向上
  - ・病害虫防除情報の発信体制強化
  - ・新品種「あきの舞」、新農業技術の実証・導入支援
- 生産費削減
  - ・肥料費削減対策の実証・展示による堆肥等活用推進
- 伊佐米ブランドの強化
  - ・お米の食味コンクールを活用した食味・品質向上支援